

8月18日（月）に開催された実践研究部会での活動を紹介します。

今回の参加者のみなさん

瀧田 健司先生（神沢中）、表 普一先生（東陵中）、阿比留慶治先生（山王中）
丹羽 良平先生（当知中）、濱地 光大先生（富士中）、佐藤 智久先生（日比野中）
橋本 昌美先生（日比野中）、樽見 宗先生（有松中）、永治 友希先生（吉根中）

秋の授業公開について

日比野中学校の佐藤智久先生は、生徒が理科の授業の中で、自ら問いを作り、探究していく姿を目指しています。そのためにまず、問い作りにつながる疑問がわくよう、意図的な活動を単元内に設定します。さらに蓄積された疑問を元に問いを作り、吟味し、実際に解決していくという過程でねらいに迫ります。

○ 問い作りにつながる活動について

佐藤先生からは、「面白いだけでなく、単元の学習内容を用いて解決できる問いを作ることにつながる活動を行わせたい。また、問いを作るハードルを下げ、問題解決のプロセスを生徒に経験させることを大切にしたい。」という考えが示されました。

それに対し、「問題解決のプロセスも大切にしながら、理科学習として生徒に何を身に付けさせたいのかについても留意する必要がある。」「発展的な内容に限らず教科書の内容についての問いをもたせられれば、理科学習としての価値は高いのではないか。」などの意見が出ました。

○ 「探究のための???カード」について

佐藤先生からは、自分で問いを立てる支援として、「探究のための???カード」が示され、その使い方と意図について次のような説明がありました。

- 単元の学習を進めていく中で、生徒が疑問に思ったことや興味をもったことを記録し、常にその記録を振り返ることは、問いを立てる上で有効だと考える。
- 単元が進むにつれてカードが埋まっていくことで、生徒の達成感が高まり、主体的に学習に取り組むことにつながるのではないかと考える。
- カードへの記入が進まない生徒への支援として、早い段階から他の生徒の記述例を紹介したい。



【実践について話し合う様子】



【探究のための???カード（一部）】

上記の提案に対し、「探究をさせる上で、観察・実験の結果と結論を結ぶ考察をきちんと確認することが必要である。」「探究活動についてのルーブリックが必要である。そこに理科としての学習内容を内包させたい。」などの意見が出ました。

名理会 秋の授業公開

令和7年10月21日（火）13:00～ 場所：日比野中学校
実践単元：中2「生命 生物の体のつくりとはたらき」

授業者：佐藤智久先生
みんなで探Qクラブ